

北条氏の滅亡後、八王子統治を託された徳川家康は、甲斐との国境警備を主眼として計画的に街を造り上げました。

家康の右腕として活躍したのが大久保石見守長安。旧武田家臣で、氾濫することの多かった南浅川の治水や街道・宿場の整備を行い、また治安維持と国境警備を任務とした八王子千人同心の組成などを行いました。

武田家滅亡時に八王子に落ち延びた武田信玄息女の松姫の存在も忘れることはできません。

武蔵野倶楽部 漫遊フォト日記 家康が造った八王子宿を巡る

2024 年（令和 6 年）5 月 15 日（水）

北条氏の滅亡後、八王子統治を託された徳川家康は、甲斐との国境警備を主眼として計画的に街を造り上げました。家康の右腕として活躍したのが大久保石見守長安。旧武田家臣で、氾濫することの多かった南浅川の治水や街道・宿場の整備を行い、また治安維持と国境警備を任務とした八王子千人同心の組成などを行いました。武田家滅亡時に八王子に落ち延びた武田信玄息女の松姫の存在も忘れることはできません。

五月晴れの下、西八王子駅から八王子駅まで歩きました。後半は歌手ユーミンの生家荒井呉服店や絹織物会館、花街の中町黒塀など、かつての「桑都（そうと）」の賑わいが現代にも息づいていました。

【行程】西八王子駅→宗格院→南浅川霞堤→八王子千人同心碑→信松院→代官屋敷跡・産千代稲荷神社→ユーミンの荒井呉服店→八幡・八雲神社→花街の中町黒塀→昼食→桑並木通り→市守神社→竹の鼻一里塚→八王子駅（解散）



信松院観音堂にて

五月晴れの心地いい一日でした。



西八王子駅近くにある馬場横丁の碑。
この先の宗格院の横は、かつて千人同心
が使用した馬場があった。



宗格院の裏庭に残る石見土手の一部。大久保長安が造ったもの。



南浅川治水の痕跡（霞堤）の説明をするガイド役の野口巻夫さん



八王子千人同心の碑（正面大樹の下です）



八王子千人同心については、参加者の
ひとりの大沼一夫さん（八王子市在住）
が解説してくださいました。



信松院にある松姫のお墓（撮影日は3月4日）



武田信玄の息女松姫は、織田信長の嫡子信忠と婚約していましたが、その後婚約は破棄され、武田家滅亡時に八王子に落ち延びました。生涯を通じて旧武田家遺臣たちの精神的支えでした。



松姫（婚約時 7 歳）と信忠（同 11 歳）と思われます



信松院で売られていた「松姫もなか」
参加者皆で食べました。美味かったです！



信松院に祭られている八王子八福神の布袋様
ガラスの丸窓から見事なお腹を触れます（ご利益ありそうですね。）



信松院近くの交差点にあったお地蔵様。可愛いっすね。



信松院観音堂の前にて。歩き始めて間もないので、まだまだ皆さん元気です。
それにしてもユニークな形をしたお堂でした。



「天下の総代官」と称された大久保長安の屋敷跡。
 守り神として産千代稻荷神社も敷地内に祭られています。
 長安は有能で、佐渡金山、石見銀山の奉行も務めました。
 また、なんと数十人の妾がいたとも（英雄色を好む、でしょうか？）



当時使われていた井戸とのこと。



歌手ユーミンの生家荒井呉服店
生憎、水曜日は定休日でした。すみません。



八幡神社と八雲神社を合祀した「八幡・八幡神社」
建物の屋根もふたつ、祭壇もふたつありました。
八王子中心街の総鎮守です。



中町にある黒塀界限（かつての花街）
芸者さんを発見できず、代わりの写真です。



江戸から 12 里の一里塚



写真中央に一里塚碑があります。



定期的に開催された市を守る市守大鳥神社



JR 八王子駅から浅川までの約 1k m の桑並木通り
 桑の並木は世界的にも珍しいそうです。
 まさに「桑都（そうと）八王子」のシンボルですね。

お疲れさまでした！（完）